

1 実践の概要

テーマ	演習HUG 避難所運営ゲーム
外部指導者	秋田県総務部総合防災課 副主幹 菊地 陽司氏／技能主任 堀井 一樹氏
実施日時	平成25年9月25日(水) 14時50分から17時00分まで
実施場所	仁賀保高等学校 会議室
参加者	職員35名

2 実践内容

次第・講義内容等	時間 (分)	準備・留意事項等
1 開会・講師紹介	2	
2 避難所運営に際しての留意点と演習の進め方について(講義)	13	・プロジェクター、パソコン、スクリーン、HUGセット
3 演習 ・体育館の図面に避難者の通路を確保する。 ・避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを用いて、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ迅速かつ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験する。 ・各班で他の班への質問事項を協議する。	100	・1グループ6人の班編制でグループ演習をおこなう。 ・グループのなかで、班長とカードの読み上げ係を決める。 ・見取り図(4種類) 1) 教室(A4) 2) 各階間取り図(A4) 3) 学校敷地見取り図(A3) 4) 体育館(A1)
4 課題検証・質疑応答 各班から配置や対応に苦慮した点などを発表し、それらに対して他の班の対処法を聞いて共通の課題認識とする。(各ケースについて講師からの助言あり。)	15	・避難所内では様々な要望や苦情等も寄せられる。それらに対しても的確な対応が求められる。
	計130	

3 参加者の感想

職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所運営に関して無知であることがわかった。想定外のことが次々と起き、その対応が難しかった。何が正しいのかはないと思うが、事態が悪くならないような配置が大切であることを理解できた。 ・ 自分が避難所を運営する立場になることを想像したことがなかったため、ゲームとはいえ難しかった。具体的な被災者の状況を設定することで現実的に考えることができた。 ・ 様々な状況がカードに盛り込まれていて、具体的な状況をいろいろ想定できた。 ・ 思いもよらない状況が頻発し、思った以上に神経を使うものだと実感した。いざという時の備えに一度はやっておくべきだと痛感した。 ・ 短時間で家族状況や被災状況などを把握して配置場所を設定するのは難しかった。 ・ 生徒と一緒にやると効果的だと思う。 ・ 実際に仁賀保高校ではどのような配置にするかなど、より実践的なものとなるよう本校の図面を用いて指導してほしい。 ・ 1回で終わるのではなく2回、3回と行うことで、大変さを単に知るのではなく具体的な対処法も学べると思う。
-----------	--

4 成果と課題

<p>成 果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の職員研修として実施。演習形式であったため、各自が考えや意見を出し合いながらグループで一つに選択・決断し、それが図面に反映されていく過程を見ながら楽しく真剣に学ぶことができた。演習後の課題検証では、各グループが自分たちの決めたいいくつかのルールに則って避難者を配置していることが確認できた。 2 防災マニュアルの運用および見直しにあたって、全職員での共通認識を図ることができた。このような模擬体験の有無は、実際の場面で適切かつ迅速な対応をとれるかに大きな差が出るだろう。 3 参加した全員に危機管理意識の高揚が認められた。学校評価アンケート「防災計画や防災体制が整い、危機管理意識がある。」の質問項目においても昨年度比で18ポイント向上した。(あてはまる・ややあてはまる、において100%の回答を得た。) 4 この研修会の一ヶ月後に防災訓練を実施した。地震・津波を想定した避難誘導訓練とその後学校が避難所として開設される初動期を想定しての訓練(避難所運営訓練・炊き出し訓練・物資調達及び搬入訓練)をおこなった。全職員と生徒会委員会組織および「Be助人(BV会の自主防災組織、これまで2度の一泊避難訓練を経験)」で役割分担したが、職員のなかでも事前準備や想定される事柄についての予測や心構えができていた。
<p>課 題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 100分の演習時間を設定したが、実際にはHUGカード(避難者の出入り・イベントを合わせて249枚のカードがある。)の半分しか進められなかった。後半になるにつれ問題も多く発生するため、本当の重大懸案には直面する疑似体験ができなかった。今回の研修会は放課後に設定したため時間的な制約もあり、夏季休業中などを利用して十分な時間の確保をすることで、より効果が期待できたかもしれない。 2 今年度の試みを単年で終わらせることなく、継続的な取り組みの必要性を感じている。訓練と検証の積み重ねが最も重要であり、職員構成は年度毎に変わる可能性もあるうえ、避難所運営のそれぞれの部署におけるノウハウを引き継いでいかなければ、いざという時の対応が不十分になるおそれがある。当然のことながら職員のみで避難所を運営するには限界があり、本校生徒も構成メンバーに含めた防災組織作りも同時に進めていかなければならない。 3 本校独自の危機管理マニュアルを改訂していくにあたって、地域の防災機関(にかほ市防災課)との連携の重要性を再認識した。避難者数の想定規模やそれに見合う数の備蓄品等に関することや学校施設の不備な点と現状で利用可能な空間の把握等相互に補完し合って防災計画を進めていくことが今後必要になると感じた。